

●宿場町の面影を残す旧山陰街道沿いにたたずんでいます

榎原本陣跡



概 略

桂大橋から榎原^{かたがはら}を経て、大枝に至る旧山陰街道。都を出て、最初の宿場町であった榎原には、現在、市内で唯一の本陣跡が保存され、今もその面影を残しています。

この街道は、榎原石畑町→川島権田町→川島粟田町という経路で流れていた鴨谷川沿いであったと伝えられています。秦氏が月見が丘に南からの外敵を防ぐ砦を築城した際に、外堀として荒木川と鴨谷川を一つにまとめて水路を変更した名残とのことです。そのため、榎原の町名には、畔ノ海道、口戸、水築、また、川島の尻堀町といった地名があり、このことをしのばせています。榎原は、丹波・山陰地方と京を結ぶ旧山陰街道と嵯峨街道が交差する交通の要衝であったことに加えて、江戸時代には京を出て最初の宿場町として大いに繁栄しました。また、物流や人の往来も激しく、ある女性がぼたもちを作って向かいの家に届けよう

としたところ、大名行列で道路を横断できず、そのうちに餅が腐ってしまったという逸話も残っています。

ただし、明治時代以降は、鉄道の整備により、丹波からの物流の中心が鉄道に移ってしまい、現在はその面影を残す貴重なまちとして、地元の方によるまち並み保存活動が行われています。



建物の特徴 虫籠窓



この街道には中2階に、虫籠窓を持つ家が見られます。これは、虫籠のように格子の目を細くした窓で、窓枠や格子を漆喰で仕上げたものです。この格子の形が虫籠に似ているため、このように呼ばれています。

大名行列が通るときに行列を見下ろすことができるので、これを禁じるお触れが発せられたという話もあるようです。

榎原本陣跡



現在の玉村家住宅は、本市で唯一残る本陣の遺構となっています。内部は、大名が座る上段の間、二階に上がる釣り階段が保存されており、当時の本陣をしのばせます。

廣田家が本陣職を務めておられました。安政年間に、廣田家から玉村家に移管されました。

現在も住居として大切に使用され、その維持に努めておられることに敬意を表します。公開されていませんが、末永く保存に努めたいものです。

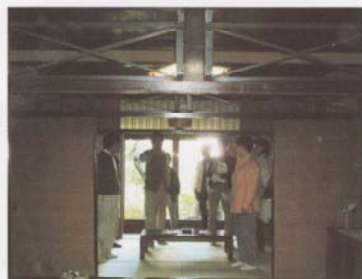


門

乳房を思わせる形の「乳鉢」が飾られています。

主屋内部

本陣座敷の体裁が整っています。手前から三の間、二の間、上段の間へと続きます。上段の間は、10cmほど高くなっています。



無量院(脇本陣)

西山浄土宗の末寺で華頂の宮の御尊牌を安置されていたことから、16弁裏菊紋章が記されています。ここには菊紋章の入った提灯が掛けてあるため、参勤交代で街道を通る大名は駕籠や馬から下乗し、平伏・一礼の後、通過したそうです。薬医門にも御紋が組み込まれています。参勤交代の時にお供が多い場合の脇本陣が榎原になかったため、当寺院が脇本陣を務めていました。



郷倉



年貢米等を収蔵される倉であり、岡郷(榎原)は山陰街道切っの物資集積地でした。川島郷・下津林郷など12郷にそれぞれ郷倉がありましたが、現存するのはこだけで貴重な建造物です。